

# こおろぎ

発行日 2004年 7月 1日 **No.136**  
発行元 株式会社  
オリジン・コーポレーション  
代表取締役：杉井保之  
〒426-0044 静岡県藤枝市大東町 777-1  
TEL 054-636-4300 FAX 054-636-6187  
E-mail [origin@ck.tnc.ne.jp](mailto:origin@ck.tnc.ne.jp)  
URL <http://www.origin-co.com>

## あなたの目指すものは？

皆さんは、何を求めて生きていますか？

仕事柄、いろいろな相談を受けて気がつくことは、自分が何を求めているかを考えないまま日々を暮らしている人が意外に多いということです。どこに行くかが分からなければ、どの電車に乗ったら良いかは分かりません。人生も同じことだと思うのです。

先日、一世帯あたりの出生率が1.29になったと発表され、その理由の第一位は、出産・育児にお金がかかり過ぎるからというものでした。4人の子どもを持つ私にとっては、とても納得のいく理由ですが、それでは私の親達の時代は、お金があったから兄弟が多かったのでしょうか？ 出生率が低いのは、子育てにお金がかかるからではなく、大人たちが高い水準の生活をしたいからではないでしょうか？ 幼い子どもに高価なブランド品の服を着せる大人がいますが、それは子どもの趣味ではなく大人の好みです。果たしてブランド品の服と、兄弟と、どちらのほうが子どもにとって大切なのでしょうか？

借家住まいが長かった私にとって、自分の家を持つことは一つの夢でした。しかし、テレビやエアコンのあるオシャレな家を持つことで、家族がバラバラに食事するようになったら、とても「豊かな生活」とは思えません。将来を生きる子ども達のことを思うと、兄弟はいたほうが良いと思いますし、少々狭くても、おじいちゃん、おばあちゃんと住むほうが豊かだと思うのです。

日本国内にいると感じにくいかもしれませんが、日本はとても豊かな国です。その豊かさが、家族とも譲り合えないわがままな大人を作り出し、ひ弱で人とかがかわることが苦手な子ども達を支えているのです。

ヴィンを持ったら幸せ。ベツに乗ったら幸せ。海外旅行に行ったら幸せ。一戸建てを建てたら幸せというのは、本当なのでしょうが、もしかして、私たちは誰かの作った「幸せ像」に踊らされ、本当に大切なものを後回しにしていないのでしょうか？

人生は、引き出しの整理と似ていて、大切なものから優先的に入れていかないと、本当に大切なものが入らなくなってしまう。

私たちが、本当に求めているものは何なのでしょう？

私なら、オシャレな家に住み、家族が一人一人別々に食事をしている家庭より、昔ながらの家で、おじいちゃん、おばあちゃん、子ども達が一緒に食事する家庭を選びます。

ある芸術家が、すべてを揃えたら完成するのではなく、削れるものを削りきった時に完成すると言っていました。幸せは少し足りないくらいの中にあるのかもしれませんが。

私は、人の笑顔を残したいと思っています。

### 「エッセイの庭」

ずいぶん多くの方に紹介していただいたおかげで、「不完全なあなたへ」は、好調な売れ行きようです。そのおかげが、文芸社のWebサイト“文芸社 ON-LINE”の「エッセイの庭」のコーナーに、私のエッセイを掲載していただけることになりました。

興味のある方は、是非、ご覧になってください。

<http://www.bungeisha.co.jp/lounge/essay/>

8月3日 火曜日から2週間掲載される予定です。

## 学ぶ方法

私は15年以上、良い仲間たちと経営の勉強会を行ってきました。みんなで同じ内容を学ぶのですが、同じように人生が拓け、同じ成果が出るかという決してそうではありません。こうした差は、何から起こるのかを考えてきて、分かったことがいくつかありましたので、前回に続き、今回もご紹介します。

前回、第一番目のポイントは、「努力の方向」だとお話しましたが、二つ目のポイントは、「差を知ること」です。

学校の成績表も相対評価から絶対評価へ移行し、「人と自分を比較することは良くない」と思われがちですが、成長するためには「差(違い)」を知ることが、とても重要なことだと思います。

プロのスポーツ選手なら、自分のフォームと強い選手のフォームの違いや練習方法を比較して、何が違うのかを考えることは当然のことです。もし自分で差が分からなければ、コーチにどこが違うのかを聞くとします。この「差」こそ、成長の鍵だと思うのです。違いが分かれば、後は練習して身につけていけば良いのです。

ところが劣等感の強い人は、出来る人と自分の違いを見ようとしません。せっかく見ても、ただ落ち込むばかりで、それを参考にしようとはしません。ですから、人から何か助言されても、まるで自分の人格や人間性を否定されたように聞こえてしまうようです。これでは成長は出来ませんね。

プロの選手が、コーチから「ちょっと腕の振りが小さくなっているぞ」とアドバイスされて、「ガン！！ あの人、そんなふうにして私を見ているとは思わなかった」と傷つくのでしょうか？ 腕の振りとは、人間性とは、全く別の問題なのです。

人は誰も、他人に嫌われたり、不幸になりたくないと思って生きていると思います。ですから、もしうまくいかないとしたら、「人間性の問題」ではなく、「やり方の問題」だと私は思うのです。そう思わなければ、とても人の相談になど乗れないと思います。

確かに色々な審判がいますので、私がストライクだと思うボールを「外れている」と言う方もいるでしょう。しかし、何人かの審判が「ボール」と判定するとしたら、「ここはボールなのか」と受け入れたほうが良いと思うのです。試合に負けているのに、「絶対にストライクだ」と意地を張って投げ続けるのは、少し傲慢な気がします。

ある優良企業の見学に行った時に、自分の会社より劣っているところを見つけて、「思ったよりたいしたことなかった」と話していた方がいましたが、ではなぜ、業績に差が出ているのでしょうか？

「差」を知ることこそ、学ぶことの第一歩だと私は思っています。

四段への二度目のチャレンジに失敗してしまいました。二月より今回のほうが自分では良かったと思っていました。審査員の先生から「何が悪いのか、それをハッキリさせ、そこを直す稽古を積まないと、何度やっても合格しませんよ」と評されました。

その後、合格発表を見ると、私が「あの人は合格だろう」と思っていた人も落ちていました。これでは自分の足りないところも分かるわけがありませんね。

私が片づけをしているところに、中学時代の恩師が来られ「中村、技を捨て切れよ。しっかり打ち込みをしなさい」とアドバイスしてくれました。

自分なりに「善かれ」と思っていたものの違いを教えてもらって、少し気づけた気がします。言われたところを意識して練習してみます。